

琉球・沖縄 年中行事 **Q&A** ？なんでも！

トートーメーの色



●Answer
 綿依 龍照(きえりゅうしょう)
 沖縄市・コザ山球陽寺住職

Q トートーメーは、なぜ赤色をしているのですか？
 (宮古島市・小学生・Sさん)

A Sさん、いいところに気がつきましたね。

沖縄のお仏壇にあるトートーメー(位牌)は、確かに赤いですよね。漢字で「紅(べに)色」と書いて、「あかい」と読むのだそうですよ。

色には、それぞれ意味があります。日本では、冠の色と地位を取り決めた「冠位十二階の制度」が、聖徳太子によって603年に作られました。これは高句麗や百濟などの制度を参考にしたといわれ、役職によって身につけるものの色が決められていました(ちなみに琉球の位階制度は15世紀末に始まったとされています)。

かつて、布を紫色や紅色に染めるには大変な手間がかかったため、一部の高貴な人しか着用が許されなかったのだそうです。このような理由から、紫や赤は格式の高い色とされています。私たち僧侶の世界でも、「僧班(そうはん)」といって、今も衣(ころも)や袈裟(けさ)が色分けされ、赤やエンジ系の色が最上位となっています。さて、沖縄のトートーメーの色ですが、なぜ紅色になったのでしょうか？

たくさん理由があるようですが、そのひとつに、「紅色に塗ること、とても大切なものであることを表している」ということが挙げられます。トートーメーの着色には、古くからの天然樹脂塗料である漆が用いられています。この漆の伝統的な色は、黒と紅が主流です。昔の人の考えでは、黒色には「マジムンサキ(魔物を避ける)」という意味があったため、トートーメーのお札の裏やフレームや台などに使われました。紅色は、お札の表に使われています。

トートーメーは、一見すると紅色が中心のようですが、全体が紅いのではなく、中心のお札だけが紅く塗られています。そして、実はそこに書かれている文字の色が重要なのです。トートーメーの文字は金色で書かれています。金色は、沖縄ではクガニ(黄金)と呼ばれ、全ての色の王様であると言われています。また、「往生成仏(おうじょうじょうぶつ)」といって、亡くなられた方が、あちらの世界(ゲン)で幸せになっていることを表している色だとも考えられています。

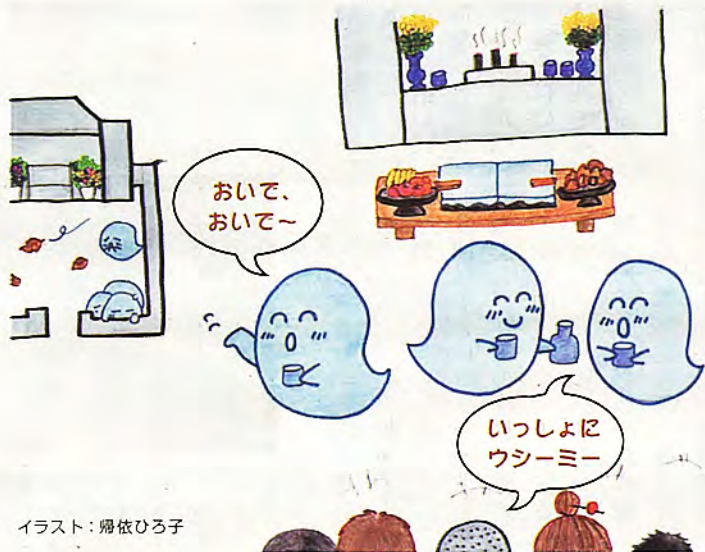
この金色をサポートする

役割があるとされる色の中で、最も格式が高いのが紅色なのだそうです。このことから、トートーメーのお札の表が紅色なのは、亡くなった方の幸せをサポートするためというの、大きな理由のひとつと言えるのかもしれない。

ところで、「台所のヒヌカン(御火之神加那志ヒヌカン(ヒヌカンガナシ))は、ウグワングトウ(御願事)だから、目を閉じてティール(合掌)しなさい。お仏壇のトートーメーは供養だから、目を開けてティール(合掌)しなさい」と、沖縄ではよく言われます。その

理由については、「ヒヌカンのウコール(香炉)は、心を静かにするという意味で白色だから目を閉じなさい。お仏壇のトートーメーは、グソ(うちだよ)の意味で紅色だから、目を開けなさい」という話を耳にします。

沖縄の先人の素晴らしいジンブン(知恵)には、心から頭が下がる思いです。Sさん、トートーメーを気にかけてくださり、ありがとうございます。亡くなられたSさんの大切な方々も、目には見えませんが、紅色のトートーメーの向こうから、きつと、喜んでSさんを見守ってくださいね。



イラスト：綿依ひろ子

今年は4月5日が清明でした。墓前に集まり、ご先祖さまと一緒にいい時間を過ごしましょうね~